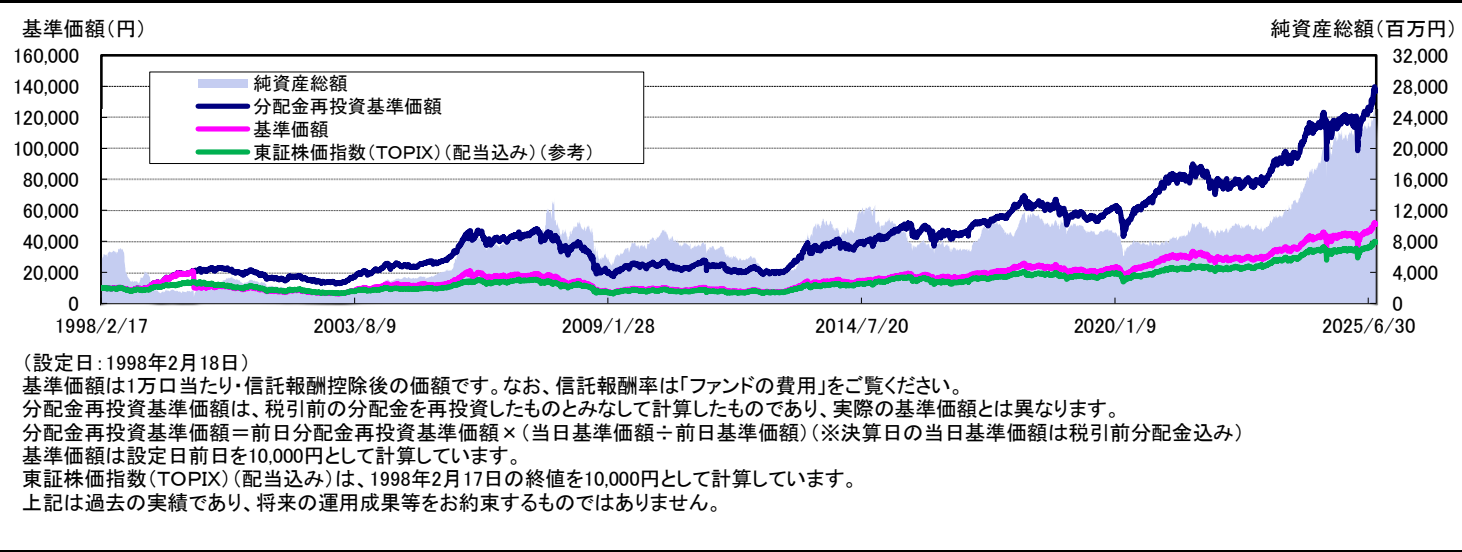


ハイブリッド・セレクション

愛称：変幻自在

追加型投信/国内/株式
2025年8月29日基準

運用実績の推移



基準価額・純資産総額	
基準価額	51,102 円
解約価額	50,949 円
純資産総額	24,030 百万円

※基準価額および解約価額は1万口当たり

ポートフォリオ構成	
株式	98.61%
東証プライム	96.79%
東証スタンダード	0.28%
東証グロース	1.54%
地方市場	0.00%
その他新興市場	0.00%
株式先物	1.02%
株式実質組入	99.63%
現金等	1.39%
組入銘柄数	96

※比率は純資産総額に対する実質組入比率です。

分配金実績（税引前）	※直近3年分
第25期（2023.02.17）	0 円
第26期（2024.02.19）	0 円
第27期（2025.02.17）	0 円
設定来累計分配金	14,590 円

※1 分配金は1万口当たり
※2 上記の分配金は過去の実績であり、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
※3 分配金額は、分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

資産配分比率	
スタイル分類	配分比率
グロース株（成長株）	54.2 %
バリュー株（割安株）	45.8 %

※ 配分比率は組入株式評価額に対する割合です。

割安株

成長株

騰落率（税引前分配金再投資）

	1カ月 (2025/07/31)	3カ月 (2025/05/30)	6カ月 (2025/02/28)	1年 (2024/08/30)	2年 (2023/08/31)	3年 (2022/08/31)
ファンド	4.55%	11.07%	19.44%	18.95%	45.35%	73.76%
東証株価指数（TOPIX） （配当込み）（参考）	4.52%	9.94%	16.20%	16.23%	38.30%	68.79%
差	0.04%	1.13%	3.24%	2.72%	7.05%	4.98%

※1 ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。
※2 上記は過去の実績であり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。
※3 各期間は、基準日から過去に遡っています。

組入上位10業種（単位：％）				
No.	業種	ポートフォリオ	TOPIX(参考)	差
1	電気機器	21.97	16.97	5.00
2	銀行業	9.87	9.43	0.45
3	機械	7.37	5.99	1.38
4	情報・通信業	6.62	8.26	-1.64
5	輸送用機器	6.32	6.95	-0.63
6	小売業	5.69	4.59	1.10
7	卸売業	5.39	7.20	-1.80
8	非鉄金属	4.25	1.21	3.04
9	化学	3.88	4.72	-0.84
10	建設業	3.74	2.39	1.35

※1 ポートフォリオの比率は純資産総額に対する割合です。
※2 業種は東証33業種分類によるものです。

組入上位10銘柄（単位：％）			
No.	銘柄	G/V	比率
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	V	4.50
2	ソニーグループ	G	4.09
3	トヨタ自動車	V	3.66
4	三井住友フィナンシャルグループ	V	3.29
5	日立製作所	G	3.10
6	三菱重工業	G	2.68
7	任天堂	G	2.41
8	日本電気	G	2.33
9	ソフトバンクグループ	V	1.78
10	東京海上ホールディングス	G	1.77

※比率は純資産総額に対する実質組入比率です。
G：グロース株（成長株） V：バリュー株（割安株）

※当資料中の各数値については、表示桁未満の数値がある場合、四捨五入して表示しています。

※ 当資料は6枚ものです。
※ P.5の「当資料のお取り扱いについてのご注意」をご確認ください。

ハイブリッド・セレクション 愛称：変幻自在

2025年8月29日基準

8月のマーケット動向と当ファンドの動き

8月の国内株式市場は上昇しました(TOPIX:+4.49%、日経平均株価:+4.01%)。月前半は史上最高値を連日更新する形で大幅上昇しました。背景としては、①弱い米雇用統計後にFRB(米連邦準備理事会)による早期利下げ期待が高まったこと、②日米関税交渉の決着により先行き不透明感が後退したこと、③海外投資家の買い越しを中心に好需給が継続したこと、などが挙げられます。月後半は緩やかに調整する展開になりました。上昇ピッチや高値水準に対する警戒感のほか、パウエルFRB議長のジャクソンホール会議での講演を見極めたいとの思惑から様子見の状況となりました。会議後は米利下げ期待が高まり、一時反発したものの、トランプ米大統領によるFRB理事解任発表を契機としたFRB人事を巡る政治的懸念に加え、それに伴う円高進行が加わり、一進一退の展開となりました。東証33業種別指数では、33業種中30業種が上昇しました。騰落率をみると、非鉄金属、鉱業、電気・ガス業などが上位となった一方、海運業、繊維製品、医薬品などが下位となりました。

ポートフォリオでは、グロース/バリュー比率については、米金融政策が利下げフェーズにあることを踏まえ、TOPIX対比でグロース株バイアスの構成を維持しました。組入銘柄については、防衛関連やAI関連のコアとしての保有を継続しつつ、関税影響が具体的に開示されたことを踏まえた売買など、決算発表を受けての売買を中心に行いました。業種別では、TOPIX対比で、非鉄金属、電気機器、サービス業のウェイトが上昇した一方で、医薬品、機械、情報・通信業のウェイトが低下しました。

当月の運用実績は4.55%の上昇となり、参考指標であるTOPIX配当込みを上回りました。要因分析については、業種配分効果はマイナス、銘柄選択効果(含む複合効果)はプラスとなりました。業種配分効果は、電気機器のオーバーウェイト、卸売業、電気・ガス業のアンダーウェイト等がマイナス要因となりました。銘柄選択効果は、富士電機(電気機器)、三井金属鉱業(非鉄金属)の上昇や、株価が下落したLINEヤフー(情報・通信業)の非保有等がプラス要因となりました。

今後のマーケットの見通しと運用方針

今後の国内株式市場は、高値圏でのレンジ推移を想定します。9月のFOMC(米連邦公開市場委員会)における米国の早期利下げ観測は強力なサポート要因とみていますが、既に市場コンセンサスとして相当程度織り込まれているのも事実です。9月前半に発表される米主要経済指標の結果が予想を上回る堅調さを示した場合、利下げ観測が揺れ動き、上値を抑える可能性があることには注意が必要です。また、日米の金融政策や市場金利動向の差異を受けた円高進行のほか、国内政治情勢の不透明感なども潜在的なリスク要因として挙げられます。半面、①国内企業業績(第1四半期決算)は、減益ながら市場予想を上回って着地し、先行きに対して一定の安心感が生じていること、②需給面において、過去最高水準の自社株買いのほか、海外投資家の買い越し基調が継続していることなどが引き続き市場のサポート要因になるとみています。

運用方針としては、米国の金融政策が利下げフェーズにあることを踏まえ、グロースバイアスを基本に臨む予定です。個別銘柄では、防衛関連やAI関連などの中長期目線でコアとなる領域と、株価が出遅れている領域の双方に注目していく予定です。投資テーマは「防衛産業の強化」、「AI・半導体産業の発展」、「インフレ」、「日本経済の正常化」の4つとし、相場環境に応じてポジションを調節しつつポートフォリオのコア銘柄として投資を行っていく方針です。

※上記のマーケット動向と当ファンドの動きは、過去の実績であり将来の運用成果等をお約束するものではありません。また、見通しと運用方針は、作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等により当該運用方針が変更される場合があります。

※東証株価指数(TOPIX)の指数値およびTOPIXにかかる標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウおよびTOPIXにかかる標章または商標に関するすべての権利はJPXが有しています。JPXは、TOPIXの指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。本商品は、JPXにより提供、保証または販売されるものではなく、本商品の設定、販売および販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。

※ 当資料は6枚ものです。

※ P.5の「当資料のお取り扱いについてのご注意」をご確認ください。



アセットマネジメントOne

ハイブリッド・セレクション 愛称：変幻自在

2025年8月29日基準

ファンドの特色(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)

信託財産の成長をはかることを目的として、積極的な運用を行います。

- ハイブリッド・セレクション・マザーファンドへの投資を通じ、実質的にわが国の株式を主要投資対象とします。
 - 1つの投資スタイルにとらわれず、グロース株とバリュー株に投資し、その組入配分を変えることにより、いろいろな相場局面において収益の獲得をめざします。
 - 株式の実質組入比率は高い水準で弾力的に調整します。
- ※ 資金動向、市況動向等によっては、上記の運用ができない場合があります。

主な投資リスクと費用(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)

当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。これらの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
また、投資信託は預貯金と異なります。

なお、基準価額の変動要因は、下記に限定されるものではありません。その他の留意点など、くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

- 株価変動リスク…………… 当ファンドは実質的に株式に投資をしますので、株式市場が下落した場合には、当ファンドの基準価額が下がる要因となる可能性があります。
- 個別銘柄選択リスク……… 当ファンドでは、マクロ調査と個別銘柄調査を踏まえて、相場局面に応じてグロース株／バリュー株比率を調整し、かつ、配当利回りの高い銘柄も一部組み入れることにより、いろいろな相場局面でのパフォーマンスの向上を目標としているため、株式市場全体の動きとは異なる場合があります。個別銘柄選択リスクとは、投資した株式の価格変動によっては収益の源泉となる場合もありますが、株式市場全体の動向にかかわらず基準価額が下がる要因となる可能性があるリスクをいいます。
- 流動性リスク…………… 当ファンドにおいて有価証券等を実質的に売却または取得する際に、市場規模、取引量、取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合には、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないことや、値動きが大きくなることもあり、基準価額に影響をおよぼす可能性があります。
- 信用リスク…………… 当ファンドが実質的に投資する株式の発行者が経営不安・倒産に陥った場合、またこうした状況に陥ると予想される場合等には、株式の価格が下落したりその価値がなくなることがあり、基準価額が下がる要因となります。

当ファンドへの投資に伴う主な費用は購入時手数料、信託報酬などです。

費用の詳細につきましては、当資料中の「ファンドの費用」および投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

※ 当資料は6枚ものです。

※ P.5の「当資料のお取り扱いについてのご注意」をご確認ください。



アセットマネジメントOne

ハイブリッド・セレクション 愛称：変幻自在

2025年8月29日基準

お申込みメモ(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)	
購入単位	販売会社が定める単位
購入価額	購入申込受付日の基準価額(基準価額は1万口当たりで表示しています。)
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。
換金単位	販売会社が定める単位
換金価額	換金申込受付日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して4営業日目からお支払いします。
申込締切時間	原則として営業日の午後3時30分までに販売会社が受付けたものを当日分のお申込みとします。 なお、販売会社によっては異なる場合がありますので、詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金請求に制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止することおよびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取り消す場合があります。
信託期間	無期限(1998年2月18日設定)
繰上償還	次のいずれかに該当する場合には、受託会社と合意の上、信託契約を解約し、当該信託を終了(繰上償還)することがあります。 ・受益権の口数が当初設定にかかる受益権総口数の10分の1を下回ることとなった場合。 ・受益者のために有利であると認めるとき。 ・やむを得ない事情が発生したとき。
決算日	毎年2月17日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回の毎決算日に、収益分配方針に基づいて収益分配を行います。 ※お申込コースには、「分配金受取りコース」と「分配金再投資コース」があります。ただし、販売会社によっては、どちらか一方のみの取扱いとなる場合があります。詳細は販売会社までお問い合わせください。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度(NISA)の適用対象となります。 当ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。 詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※税法が改正された場合等には、上記内容が変更となることがあります。

ファンドの費用(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)	
以下の手数料等の合計額、その上限額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することができません。 ※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。	
●投資者が直接的に負担する費用	
購入時手数料	購入価額に、 3.3%(税抜3.0%) を上限として、販売会社が別に定める手数料率を乗じて得た額となります。
換金手数料	ありません。
信託財産留保額	換金申込受付日の基準価額に 0.3% の率を乗じて得た額を、換金時にご負担いただきます。
●投資者が信託財産で間接的に負担する費用	
運用管理費用(信託報酬)	ファンドの日々の純資産総額に対して 年率1.188%(税抜1.08%)
その他の費用・手数料	その他の費用・手数料として、お客様の保有期間中、以下の費用等を信託財産からご負担いただきます。 ・組入有効証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、信託事務の処理に要する諸費用、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用 等 ※これらの費用等は、定期的に見直されるものや売買条件等により異なるものがあるため、事前に料率・上限額等を示すことができません。

※ 当資料は6枚ものです。
※ P.5の「当資料のお取扱いについてのご注意」をご確認ください。

ハイブリッド・セレクション 愛称：変幻自在

2025年8月29日基準

投資信託ご購入の注意

投資信託は、

- ① 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
- ② 購入金額については元本保証および利回り保証のいずれもありません。
- ③ 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

当資料のお取り扱いについてのご注意

- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成した販売用資料です。
- お申込みに際しては、販売会社からお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。
- 当ファンドは、実質的に株式等の値動きのある有価証券に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。
- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料における内容は作成時点(2025年9月9日)のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

◆収益分配金に関する留意事項◆

- 収益分配は、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の配当等収益および売買益(評価益を含みます。))を超えて行われる場合があります。したがって、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 受益者の個別元本の状況によっては、分配金の全額または一部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。個別元本とは、追加型投資信託を保有する受益者毎の取得元本のことで、受益者毎に異なります。
- 分配金は純資産総額から支払われます。このため、分配金支払い後の純資産総額は減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。計算期間中の運用収益以上に分配金の支払いを行う場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。

◆委託会社およびファンドの関係法人◆

＜委託会社＞アセットマネジメントOne株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第324号
 加入協会:一般社団法人投資信託協会
 一般社団法人日本投資顧問業協会
 ＜受託会社＞三井住友信託銀行株式会社
 ＜販売会社＞販売会社一覧をご覧ください

◆委託会社の照会先◆

アセットマネジメントOne株式会社
 コールセンター 0120-104-694
 (受付時間:営業日の午前9時～午後5時)
 ホームページ URL <https://www.am-one.co.jp/>

「ハイブリッド・セレクション」が、
 『R&Iファンド大賞2025』の「投資信託20年／国内株式コア部門」において
 優秀ファンド賞を受賞しました。



「R&Iファンド大賞」は、R&Iが信頼し得ると判断した過去のデータに基づく参考情報(ただし、その正確性及び完全性につきR&Iが保証するものではありません)の提供を目的としており、特定商品の購入、売却、保有を推奨、又は将来のパフォーマンスを保証するものではありません。当大賞は、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定されるその他業務(信用格付業以外の業務であり、かつ、関連業務以外の業務)です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置が法令上要請されています。当大賞に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はR&Iに帰属しており、無断複製・転載等を禁じます。「投資信託20年部門」は過去20年間を選考期間とし、シャープレシオによるランキングに基づき、最大ドローダウン、償還予定日までの期間、残高の規模等を加味したうえで選出しています。評価基準日は、2025年3月31日。

※当該評価は過去の一定期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※ 当資料は6枚ものです。



アセットマネジメントOne

ハイブリッド・セレクション 愛称：変幻自在

2025年8月29日基準

販売会社（お申込み、投資信託説明書（交付目論見書）のご請求は、以下の販売会社へお申し出ください）

○印は協会への加入を意味します。 2025年9月9日現在

商号	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	備考
PayPay銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長（登金）第624号	○		○		
株式会社北陸銀行	登録金融機関 北陸財務局長（登金）第3号	○		○		
三菱UFJ eスマート証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第61号	○	○	○		
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第44号	○		○	○	
岡三証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第53号	○	○	○	○	
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第67号	○	○	○		
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2336号	○	○	○	○	
十六TT証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第188号	○				
立花証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第110号	○		○		
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○	
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第140号	○	○	○	○	
内藤証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第24号	○			○	
moomoo証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第3335号	○	○			
西日本シティTT証券株式会社	金融商品取引業者 福岡財務支局長（金商）第75号	○				
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2251号	○	○	○	○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第165号	○	○	○	○	
日産証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第131号	○		○	○	
広田証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第33号	○				
松井証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第164号	○		○		
丸三証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第167号	○	○			
水戸証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第181号	○	○			
株式会社みずほ銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第6号	○		○	○	※1
三菱UFJ信託銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長（登金）第33号	○	○	○		※1
みずほ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第94号	○	○	○	○	※1
野村證券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第142号	○	○	○	○	※1
浜銀TT証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第1977号	○				※1
ひろぎん証券株式会社	金融商品取引業者 中国財務局長（金商）第20号	○				※1

以下は取次販売会社または金融商品仲介による販売会社です。

○印は協会への加入を意味します。

商号	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	備考
株式会社SBI新生銀行（委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券）	登録金融機関 関東財務局長（登金）第10号	○		○		
株式会社イオン銀行（委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）	登録金融機関 関東財務局長（登金）第633号	○				
株式会社SBI新生銀行（委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）	登録金融機関 関東財務局長（登金）第10号	○		○		

●その他にもお取扱いを行っている販売会社がある場合があります。

また、上記の販売会社は今後変更となる場合があるため、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。

<備考欄について>

※1 新規募集の取扱いおよび販売業務を行っておりません。

※2 備考欄に記載されている日付からのお取扱いとなりますのでご注意ください。

※3 備考欄に記載されている日付からお取扱いを行いませんのでご注意ください。

（原則、金融機関コード順）

※ 当資料は6枚ものです。

※ P.5の「当資料のお取扱いについてのご注意」をご確認ください。



アセットマネジメントOne